

謹 賀 新 年



東京都大田区蒲田
5の10の2
全日本港湾労働組合機関紙
(毎月1日発行)
一部20円 (組合員の購読料は組合費の中に含む)
発行責任者
真島勝重



撮影：東海地方田子の浦支部 千頭和 達也



新年のあいさつ

中央執行委員長 松本 耕三

新しい年を迎え、お祝いを申し上げます。

二〇一八年は、安倍政権による北朝鮮への挑発が続く中で、極めて戦争の危険の中で迎えることとなりました。マスコミのほとんどが、政府官邸のおもねるよう「北朝鮮の脅威」を報道する姿は、昭和一〇年代日中戦争から太平洋戦争の至る時期、中国人に対する蔑視宣伝、対米敵視政策をはやし立てた戦争報道を思い起こさせます。

昨年秋も大規模な米韓演習が行われました。そのなかで、「金正恩斬首作戦」とよばれた演習も行われたことが報道されました。仮に、日本の首都近海で、外国軍隊による「日本総理にたいする斬首作戦」なるものが行われたら、日本国民はどう思うのでしょうか。それこそ大変な挑発行為と受け止めるでしょう。アメリカ側の挑発によって、いま、朝鮮半島から日本を含む地域は、大変な危険の状況であると言わざるを得ません。

わたしたちは、絶対に戦争を起こさせず、起こしてもならないのです。平和を守る努力を怠ると、戦争は、いつも、偶発的に、突発的に起こります。そして一度起きた戦争は多くの人々に憎悪と怨恨をもたらし、武力とテロの連鎖につながることは、中東の実態を見ても明らかです。平和を守ることにこそが、大量の犠牲者を出した太平洋戦争をおこした当事者としての責任ではないでしょうか。

安倍政権は、トランプ米大統領と一緒に進んでいる朝鮮半島の挑発をやめるべきです。そして、アメリカに対して、「テロ支援国家の再指定」(別名ならず者国家指定といわれる)をやめさせ、休戦協定ではなく平和協定の締結を求めざるべきです。

さて、昨年の総選挙で多数議席した安倍政権は、国会審議をないがしろにし、強引な政権運営を続けています。通常国会で安倍政権は、「働き方改革」と称した労働法制の全面改悪が上程しようとしています。派遣労働者など非正規労働者が四割を超えている現状では、ほとんどの労働者が低賃金、長時間労働、パワハラなどの労務管理に不満を持っています。安倍政権は、そのような労働者の不満に付け込むように、「働き方改革」という美名をつけてだけで、中身は全く逆の「労働法制の改悪」をしようとしています。長時間労働

で残業代ゼロ、格差の固定、雇用の不安定につながる全面改悪であり、絶対に許すことはできません。

そして安倍首相は年内中にも、憲法の改悪を強行しようとしています。憲法九条を改悪し、戦争のできる国にすることであり、それは軍備の拡大と軍需産業の利益をも止める日米軍需産業の意をくんだものです。そして、本来、「権力の横暴を縛るべき憲法」を「権力が国民を監視し、支配する道具」に変えようとしています。憲法改悪に反対するたたいは、喫緊の課題です。

昨年の総選挙で、「希望の党への合流と民進党の解党」に伴う野党側の混乱によって、安倍政権は棚ぼたの様な勝利で圧倒的多数の議席を獲得しました。しかし、盤石な政権とは言えません。森友・加計疑惑は何も解決していません。アベノミクスという公的資金の投資によってつくられた株高バブルはいっはじけるかわかりません。たよりにしているトランプ米大統領の基盤はロシア疑惑などきわめて不安定です。安倍政権はいっ倒れてもおかしくありません。

昨年の衆議院選挙においても、野党共闘がしっかりしていた新潟選挙区の多くでは野党が勝利し、北海道選挙区でもほとんど五分五分という結果でした。労働組合の選挙の取り組みがしっかりしている地域では野党共闘が善戦しています。

わたしたち労働組合は、生活の安定、労働条件の向上を企業に求めるだけでなく、働く者のための政治の実現を求めていくことが必要です。それは、わたしたちの政策要求実現のためにもたたかってくれる国会議員、地方議員を当選させることなしにはできないのです。今年、労働組合の団結力で、わたしたちの政策実現のための議員をもっと多く作り出していくために、選挙闘争の強化が課題ではないでしょうか。

国民の大多数である勤労者、労働者が豊かな生活を享受し、多くの消費がなければ、一部の人間だけが膨大な利益を得たとしても、社会は繁栄しません。格差、貧困、雇用不安をなくしていくことこそが、本当の社会の発展を作り出していくことになるのではないのでしょうか。今年こそ、政治刷新の年にするため、頑張りましょう。

労供労組協秋の学習会 「公務労供の可能性」の講演受ける

十一月十二日から十三日にかけて神奈川県内「マホロバ」にて労供労組協秋の学習会が開催されました。学習会には全港湾から三名、コンビユーターユニオン二名、新運転二名、近畿から大阪支部二名、全日建連帯二名、建交労二名が参加しました。

学習会では、講演として足立区環境部で減量推進課秋腰光信氏による「公務労供の可能性」と題して、現業(学校事務・学校給食など)部門が事業として民間に委託されてきた歴史や、その受委託の正当性などが紹介されました。また、現業でも「清掃部門」では、民間委託の内容が「作業員」いわゆる「助手」の部分で民間に切り離す手法から、清掃車連転など、清掃業務を一括して民間への委託になった流れなど、公務業務の切り離しの現実が浮き彫りとなった報告でした。

食とみどり、水を守る全国集会 忘れてはならない努力を共有しよう

十一月十七日(金)、十八日(土)の二日間、熊本県熊本市において第四回食とみどり、水を守る全国集会が開催されました。集会スローガンは「火の国から燃える思いを！がまだし築こう共生の環」食とみどりの復興を目指し「(がまだし」とは熊本弁で「頑張る」の意味。

「その自分の腕で樽を漕いで、あおさをとりに行こう」とうたう。うちゃ泣こうとた

労働副議長からは、清掃業務の民間委託の流れに準じ、公務労供として労供事業の拡大・組織拡大への可能性が議論されました。同時に、現在委託される清掃業務においては、受注業者はほぼ限定されており、入札方法の正当性についても疑問が残る現状であるとの経過も報告されました。

近畿広域では、労供事業を行う大阪支部や全日建、建交労の参加者から「京都福知山で起きた日雇い保険の不正受



ただではなく、港湾においても、港湾内のターミナル休憩所や食堂、港湾の警備や関係する事務庶務など、民間に委託されている事もあり、そこも含めて広域な労供拡大に繋がっていかねば、労供事業者が増え、労供事業への認知度が上がり、労供労働を求める人が増えて繋がれば、労供の組織拡大になっていくであろうと、身近な港湾の現状を報告しながら、その可能性に全国的に挑戦していきたいと豊富を述べました。(諸見 力)

去る、十一月十二日(日)九時三十分より新潟支部主催の秋年末闘争勝利団結学習会を開催しました。今回のテーマは「選挙結果とこれからの労働運動の課題」とし、講師に毎日新聞新潟支局長の東海林さんを招き、各分会の役員並びに事務職の組合員を中心に一〇〇名が参加しました。

東海林さんから、「新潟県における衆院選挙結果をどう見るか」、「労働運動に期待される役割」を題材に講義を受けました。

今回の衆院選では与党が三分の二を超える結果となりましたが、新潟県においては自民二勝、野党四勝という全国的な流れとは逆行する結果となりました。要因としては、重要だと感じました。

安倍政権は、ILOの原則を無視し、労働商品と考え、労働者の意見は聞かず自

候補者を擁立出来なかった事から、結果として野党共闘対与党の構図ができ野党の逆転勝利に繋がったと説明を受けました。安倍政権を打倒するためには野党共闘が必要不可欠であり、この様な取り組みを発信し継承していく事が重要だと感じました。

最後に、ただ指を加えて見ているだけでは

一七秋年末闘争勝利 新潟支部団結学習会の開催

由に使うための大義を作り上げ、労働者派遣法の改悪や、限定社員制、残業代ゼロ制に法律を作り替えようとしていきます。労働者は働く尊厳を守り、人間らしい働き方をする権利があります。安倍政権が推し進めようとするこれらの改悪を阻止するためには、自らが内容を学ぶ多くの人と連帯を深めていかなければならないと感じました。

最後に、ただ指を加えて見ているだけでは



た。被災者自身の不自由な生活の中での工夫、被災現場で自分自身が被災者であるにもかかわらず復旧の先頭に立ち、迅速に対応してきた人々が感じた課題、各地から駆けつけていただいた方々との連携など、新たに気付かされた知恵を確認し問題点を広く共有することは、地震国でありいつどこで大地震が発生しても不思議ではないわが国で生活するものにとって意義深いことだと思われま

九州熊本での「食とみどり、水を守る全国集会」に参加し、地震対応での課題のみならず、熊本のゆたかな恵みの維持、また水俣病に代表される過去に経験した、いろいろな痛みについて再確認し、安全で安定した生活を享受するために、忘れてはならない技術や努力を共有し、しっかりと語り継いでいかなければならないと強く感じました。

(関門支部書記長 法本健吾)

した。日本の公害の原点と言われる水俣病は、一九五六年に公式確認されたから六一年を越えましたが、今も多くの未確定患者が残り、問題は終わっていません。

これは単にチッソという企業の問題に留まらず、国や

大企業が環境汚染にきちんと向き合わず、利益・効率優先、経済成長至上主義の裏で、多くの人々の命や暮らしを犠牲にしてきた構造的な問題と言えます。また、国策のもとで、隠蔽や差別・差別が行なわれてきたことは、福島第一原発事故とも通底するものです。

現在、復旧・復興に向けた取り組みが進められています。安全で安定した生活を享受するために、忘れてはならない技術や努力を共有し、しっかりと語り継いでいかなければならないと強く感じました。

(関門支部書記長 法本健吾)

候補者を擁立出来なかった事から、結果として野党共闘対与党の構図ができ野党の逆転勝利に繋がったと説明を受けました。安倍政権を打倒するためには野党共闘が必要不可欠であり、この様な取り組みを発信し継承していく事が重要だと感じました。

最後に、ただ指を加えて見ているだけでは

18けんり春闘全国実行



十一月二十七日、一八けんり春闘発足総会・学習会が都内で開催された。一八けんり春闘発足にあたって、金澤共同代表(全労協議長)は「連合は二%の賃上げ要求として、八時間労働で生活できる賃金がなければパーセレ、一八春闘要求については、二〇、〇〇〇円以上、七%以上の賃上げ等が確認された。

続いて、学習会がおこなわれ、法政大学の西充子教授から「働き方改革、安倍政権のねらいと私たちの課題」と題する講演を受けた。西教授は「安倍政権の働き方改革というものは、社会問題の解決のためではなく経済問題の解決がねらい」と述べた。

講演に続いては特別報告がなされ、平和フォーラムから成功させよう、沖縄一坪反戦地主会関東ブロックからは二月四日の名護市長選を全力でたたかおうとの呼びかけを受けた。(片柳悦正)

けんり春闘総会・学習会 長時間労働合法化の危機

十一月二十七日、一八けんり春闘発足総会・学習会が都内で開催された。一八けんり春闘発足にあたって、金澤共同代表(全労協議長)は「連合は二%の賃上げ要求として、八時間労働で生活できる賃金がなければパーセレ、一八春闘要求については、二〇、〇〇〇円以上、七%以上の賃上げ等が確認された。

続いて、学習会がおこなわれ、法政大学の西充子教授から「働き方改革、安倍政権のねらいと私たちの課題」と題する講演を受けた。西教授は「安倍政権の働き方改革というものは、社会問題の解決のためではなく経済問題の解決がねらい」と述べた。

講演に続いては特別報告がなされ、平和フォーラムから成功させよう、沖縄一坪反戦地主会関東ブロックからは二月四日の名護市長選を全力でたたかおうとの呼びかけを受けた。(片柳悦正)



二〇一八年、あけましておめでとございます。今年も年男・年女の皆さんにこれまでの思い出や今後の抱負などを一言お願いしました。良い一年でありますように！



北海道地方釧路支部 水島祥晃

おめでとございます。皆様におかれましては新年つづがなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。今年も還暦となり、益々、健康に注意しながら邁進していきます。



東北地方八戸通運支部 日登鉄也

七月に還暦を迎える事となりました。組合員となって三〇年余り、大変お世話になりました。これからは、孫の健やかな成長と、東日本大震災の様な自然災害のない、穏やかな日々を過ごせたら幸いです。願うばかりです。



北海道地方小樽支部 五十嵐修

明けましておめでとございます。本年もよろしくお願います。今年も還暦を迎える年という事で、昨年同様、健康に注意しながら無事故に努めてまいります。どうぞよろしくお願います。



東北地方塩竈支部 山崎秀明

新年を迎え誠にありがとうございます。三陸分会が結成して二三年を迎えます。その間の半分は執行委員を行い、春闘、夏季・冬季一時金交渉等

をおこなってききました。しかし、中央の要求と地方港の要求に差がありすぎ、中央要求に近づけることができません。これからは中央方針に沿えるよう頑張っていきたいと思えます。東日本大震災の際は皆様のご支援で助けていただき大変助かりました。



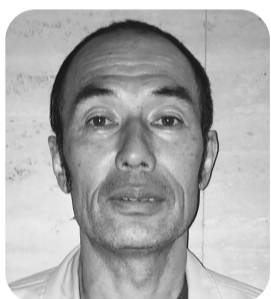
日本海地方直江津支部 杉田恒

健康で、大過無い六〇年間を有難く思っています。人生一〇〇年の時代と言われている。衰えは大いに感じますが幸いに元気です。折角ですから体力の限界まで働き続けてみようかなと思っています。



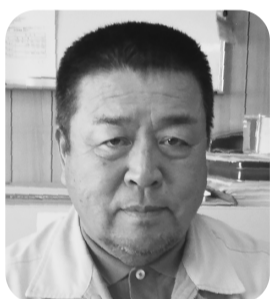
日本海地方伏木支部 竹田尚弘

今年も地方に於いてはまだまだ厳しい経済状況が続くと思われ、この厳しい中職域確保、雇用生活を守り、賃金引上げ、労働時間短縮など労働条件の引き上げ、また反戦、反核、平和と民主主義、環境を守る闘いを今年も精一杯取り組む、安全作業で無事故、無災害の継続を進めていきます。



関東地方横浜支部 鈴木昭俊

日本国際分会として、当初八名でスタートしたのですが、退職・定年等で組合員が減りましたが全港湾に残って行くことにしました。もう定年も近いので一人でも加入させようと思うのですが、新入社員が入ってきません。その原因の一つは個人主義とか自分らしさが強くてあまり連帯しないのではないかと！どうしたら仲間ができるかがこれからの課題ですね。弱い者が連帯して組織することは正しいと思えます。



東海地方四日市支部 林法幹

私は港湾のクレーン作業を主とした業務の監督をしております。皆さんもご存知だと思いますが、港湾でのクレーン作業は、常に危険と隣合せて、日々緊張感を持って業務をしております。二〇一八年度を迎えるにあたり、より一層の安全作業と、そして行いう上でかせない健康な体づくりで十分気を配り、この一年をすごしていきたいと思えます。



東海地方名古屋支部 近藤隆夫

早いもので、日興サービスで働き、六〇歳の還暦を迎える年となりました。気持ちはまだまだ若いままですが、身体は六〇歳の歳月を歩いてまいりました。今年も健康面に気を配りながら、一年間仕事に組合に頑張りたいと思えます。



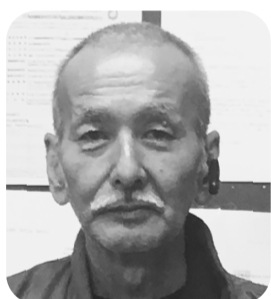
関西地方大阪支部 中川肇

十月で六〇歳を迎え動続三九年となります。一九八一年の本四架橋大闘争の時に入社二年目の二二歳で、労働運動のイロハを肌で感じてまいりました。その後の三七年はあつとこの間に過ぎ去ったようであり、この記事の依頼を受けて走馬燈のように今までのことが思い浮かばれます。今後は、微力ながら後輩育成のお手伝いをしていきたいと思えます。



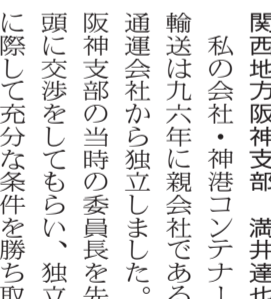
東海地方清水支部 青木吉則

今年で五回目の干支を迎える事になりました。この職に就いて三〇年、組合活動に携わって二三年、評議員に信任され地本の大会、全国大会・大森での青年部・沖繩平和行進等参加しましたが、一番の思い出は清水港での他業者の参入問題で、全国からの応援頂き阻止出来た事でした。本当にありがとうございます。



四国地方新居浜支部 横川忠

還暦を向かえるにあたって、入社して早や二七年。思



関西地方阪神支部 満井達也

私の会社・神港コンテナー輸送は九六年に親会社である通運会社から独立しました。今は子供の年齢位の仲間が半分を占め、世代交代をしまじみ感じる今日この頃です。年齢と共に体力も落ち、身体に無理もきかなくなりまして、無理由に腰を打ち頑張っていました。〇八年の会社代表者をめぐる混乱でも支部の指導により経営を存続させ、職場を残し定年を迎える事が出来ました。支部の指導と仲間のおかげであると痛感しています。今後は雇用延長協定も確立していますので、気力・体力の続く限り組合員として労働運動に邁進します。



九州地方鹿児島支部 鎮西博和

還暦間近、今の目的は平穩無事に人生を生きる事です。平穩無事こそ難しいといいますが、今までの経験から培った知恵と蓄えた財があれば、ある程度の平穩無事は手中心でできるのではと思えます。終りがあるからこそ一生懸命生きる！皆様にとって幸多き年となりますように。



四国地方香川県支部 山村一平

全港湾に加盟して四〇年を迎える今年、六〇歳の還暦を迎えることになりました。現在の状況では雇用延長となり労働条件も低下します。是非、定年延長を勝ち取り、六〇歳を過ぎて働きたいと思えます。



九州地方門閩支部 信藤晃文

還暦、定年という特別な一年、関門海峡を眺めながら三年という月日が流れ、皆様に支えられ無事に定年を迎えられます。皆様には感謝の気持ちで一杯です。未知の六〇歳をどう生きるか？ですが、エンディングを清々しく迎えて、入社して早や二七年。思



沖繩地方 金城好勝

早いもので一九歳で臨時雇用から働いてあつという間に六〇歳(還暦)を迎えることができました。沖繩第一倉庫分会では、倉庫での入出荷作業が主な仕事ですが、日々多忙の中、仲間を支えられての今日だと思えます。来年も仲間と共に精一杯頑張っていきたいと思っています。全港湾の組合員としても団結して基地反対を訴えています。



沖繩地方 名嘉山あきら

一月に還暦を迎える琉球物流運輸分会の名嘉山と申します。職種はトラックドライバーです。足腰の衰えもありますが、これからも健康に気をつけて安全運転を心がけながら仕事に励みます。また、日頃より沖繩関連(平和行進や、辺野古新基地建設断念に向けた取り組み、沖繩七メソト闘争への支援)等の協力に厚く御礼申し上げます。これからも全国の仲間の皆さんと団結して頑張っていきたいと思います。